

三根 浩 MINE Hiroshi
教授

[現在の専門分野]

実験系心理学

[現在の研究テーマ]

臨床心理学

[学 位] 文学修士 (同志社大学)

[所属学会] 日本心理学会、外国語教育メディア学会

■ 主要研究実績

〈著書〉 認知的アプローチによる外国語教育 (共著) 松柏社	2000年
図解心理学 [改訂版] (編著) 学術図書出版	2001年
〈論文〉 情動語の分析 心理学研究	1978年
テスト不安研究の展望 心理学評論	1980年
英語語彙学習におけるマルチメディアの可能性 コンピュータ&エデュケーション	2000年
語彙学習のための偶発的/潜在的CALL system 外国語教育メディア学会関西支部研究集録	2002年

■ 学内外研究費による主要研究活動歴

電気通信普及財団 英語マルチメディア教材の開発と教育効果の検討	1992年
科学研究費補助金 (基礎研究 (C)) 英語基本動詞のコア・イメージを用いた句動詞による外国語学習の展開	1999年~2000年

■ 主要な担当授業科目

[大 学] 人格心理学、知覚メディアの心理学、マルチメディア論、臨床心理学など

楽しみながら主体的に学べる CALL システムを開発する

近年、外国語教育の現場では「CALL」(Computer Assisted Language Learning) と呼ばれる教育システムの利用が盛んです。CALLには、リスニング、リーディング、ライティングの3要素を統合的に扱うことができ、インターネットに接続することでマルチ

メディアに対応したリアルタイムの情報を活用できインタラクティブ性が高いという利点があります。つまり、「打てば響く」ように、メディアから瞬時に情報を取り出すことや、国内外の利用者との自由な情報交換ができ、疑問に対する回答も素早く得られるのが特徴と言えます。

こうしたCALLの特徴について、言語学習ではどの段階においても「認知的学習」が鍵となることから、認知心理学や認知言語学の観点を重視する必要があります。認知的学習の効果については、他大学の研究者とも共同研究を行いました。この成果を反映させな

がら、学内のCALL教材開発の要請にも応えています。

外国語教育メディア学会関西支部 2001 年春季研究大会で、「CALLとLLの違い～条件づけ vs. 認知的学習～」を報告しました。

フィードバック(KR)の重要性

- KR: Knowledge of Results
- 内発的動機づけに働きかけるKR
 - 認知的学習が進行する
- 外発的動機づけの問題点
 - 外発的=強化子(O/N)
 - 試行錯誤学習を誘発する



BOOK

